

# 自然保育推進事業 活動報告書

## 1 かえで幼稚園

## 2 今年度の活動概要

### (1) 職員の資質向上の取組

今年度も自然体験活動アドバイザーである菊間馨先生を招いた研修を行い、森の植物についてのレクチャーを受けた。森には途方に暮れるほど植物が生えており、一つ一つを把握しようとするものの困難さは以前から感じていた。だが菊間先生は



「すべてを把握する」という形ではなく、楽しさや重要性によって色分けして自然を捉えていくことの大切さを教えてくれた。例えば園児それぞれが気に入った植物について理解を深めていくというかたちで保育をするということも成り立ちうると感じ、保育における自然のあり方がとても広がっていくのを感じた。また、植物だけでなく虫や動物についても教えていただいたことで、生態系の循環というものをより身近に感じることができ、ありがたかった。

このように森を理解しようとする取り組みが普段の保育にどのように活かされていくかということについては、普段から保育者が頻繁に森に行くこと、森の様子をいつも見て、その変化に敏感になることによるのではないかと考えている。そうした日々があってはじめて、保育における森のありかたを考えることにつながるはずである。

子どもたちの中にも森が好きな子と苦手な子があり、虫取りが好きな子たちは一日中走り回っているのだが、苦手な子は担任と一緒にいくときでないかぎり一步も入らないという様子である。しかし森は遊びの場としてとても魅力的であるため、できるだけ多くの子に森に親しんでもらいたいと考えている。

### (2) 遊びの事例

6月頃になると園庭にはいろんな虫があらわれはじめ、虫好きの子どもたちは虫とりに夢中になる。この時期に虫とりとすることにあわせて、部屋で虫の工作に熱



中する子どもの姿が見られた。園庭で見つけた虫や、捕まえた虫から虫に対する興味関心を膨らませ、図鑑などを見ながら虫の工作に熱中していた。この工作あそびは虫とりができる時期に多くみられ、虫とりができる時期が終わるころには収束していった。園庭に出て自然に触れ合い、いろんな生き物に出会い刺激をうけることが、部屋の中での遊びにも影響していることが見られる。園庭と園内

の環境は決して分かれたものではなく、子どものあそびを通して見るとそれはつながった一つの環境である。そのことを意識して、これからもそれぞれのあそびが豊かなものになる環境構成をすすめていきたい。